

高等学校教材

日本地理

(日语专业用)



译文出版社

高等学校教材

日 本 地 理

(日语专业用)

北京外国语学院日语教研室编

上海译文出版社

高等学校教材

日本地理

开本 850×1156 1/32 印张 4 字数 96,000

1981年6月第1版 1982年2月第2次印刷

印数: 9,001—16,500册

书号: 7188·37 定价: (六) 0.41元

编写说明

为了配合大专院校日语专业教学日本概况课的需要，我们编写了这本《日本地理》教材，以供四年制日语专业二年级以上的学生使用。

本书是在北京外国语学院和大连外国语学院合编的《日本地理》教材的基础上，并参考了其他有关资料编写而成的。内容着重介绍了日本的自然、经济地理概貌，工农业、商业、贸易、交通运输、电信事业等发展情况及其现状，以及全国各地区概况等基本知识。全书共分十三章，第一章至第九章为基本教材，第十章以后各校可结合本校具体情况安排教学。

本书由李书成、唐则铭和新乡师范学院岩本生共同编写，唐则铭执笔。书中地图由我院国际政治教研室李谋源同志绘制。定稿前，曾承高等学校外语教材编审委员、国际关系学院的于长江和吉林大学林昌培、大连外国语学院周传之以及中国人民解放军洛阳外国语学院胡振平等同志参加审稿。本书编写过程中，还得到大连外国语学院张志强、黑龙江重型机械学院汪瑞生、黑龙江师范学院张敏等同志的大力协助。我们在此一并表示深切谢意。

由于编者水平有限，时间仓猝，难免会有疏漏或错误，欢迎读者随时批评指正。

北京外国语学院日语教研室

一九八〇年十一月

目 次

第一章 位置と地形	1
1. 位置.....	1
2. 面積と地方区分.....	2
3. 山地と火山.....	4
4. 川と湖.....	7
5. 平地.....	9
6. 海岸とまわりの海	11
第二章 気候	14
1. 日本の気候の特色	14
2. 気候区分	15
3. 梅雨(つゆ)と台風	18
4. 気候と植物	19
第三章 自然災害	20
1. 多い自然災害	20
2. 災害に対する対策	21
第四章 人口	23
1. 総人口と人口密度	23
2. 人口の増加と分布	23
3. 産業別人口	25
第五章 資源	27
1. 地下資源	27
2. エネルギー資源	28
3. 森林資源と林業	30

4. 水産資源と漁業	33
5. 水資源	36
6. 資源をめぐる諸問題	37
第六章 農業	40
1. 日本農業の地理的条件	40
2. 米づくり中心の農業	41
3. おとろえる畑作	42
4. さかんな野菜づくり	43
5. 種類の多い果物	44
6. おとろえる工芸作物	44
7. 発展する畜産	45
8. 農業技術の発展と機械化	46
9. 日本農業の問題点	49
第七章 工業	54
1. 日本工業の特徴	54
2. 日本の工業地帯	56
3. 日本工業の問題点	59
第八章 商業と貿易	62
1. 日本の商業	62
2. 日本の貿易	64
第九章 交通と通信	68
1. 陸上交通	68
2. 海上交通	71
3. 空の交通	72
4. 日本の通信事業	73
第十章 日本の各地方(一) 東北日本	75
1. 北海道地方	75
2. 東北地方	79

第十一章	日本の各地方(二) 中央日本	82
1.	関東地方	82
2.	中部地方	88
	① 東海地方	
	② 北陸地方	
	③ 中央高地	
3.	近畿地方	94
	① 中央低地	
	② 紀伊半島と北部山地	
第十二章	日本の各地方(三) 西南日本	102
1.	中国、四国地方	102
	① 瀬戸内地方	
	② 山陰地方	
	③ 南四国	
2.	九州地方	107
	① 北九州	
	② 中・南九州	
	③ 南西諸島	
3.	各地方の簡単なまとめ	115
第十三章	観光地	117

第一章 位置と地形

1. 位置

日本はアジア大陸の東側にある島国で、その島々は北東から南西に弓なりにつらなっている。日本の国土は本州、北海道、九州、四国の四つの大きな島と約3000にのぼる小さな島々（満潮時にまわりの海岸線が100 m 以上ある島）とからなっている。

日本は日本海と東中国海をへだてて、中国、朝鮮とむかいあい、東は広い太平洋をへだてて、アメリカ大陸とあい対している。北にはオホーツク海をへだてて、ソ連のシベリアがあり、南には太平洋をへだてて、フィリピンやインドネシアなどの国々がある。

日本は東経約123度（沖縄県の与那国島）から154度（東京都の南鳥島）、北緯約20度半（東京都の沖の鳥島）から45度半（北方領土の択捉島）の間にあり、その内側に大小の島々が散らばっている。

日本は古くから近くのアジア大陸とゆききして、中国や朝鮮などから大きな影響をうけてきたが、遠くはなれたヨーロッパやアメリカとは、長い間交通が開かれなかった。しかし、世界的に資本主義が発展し、交通や通信が進歩するにつれて、日本とヨーロッパやアメリカ大陸の国々との交流もさかんになった。

現在、日本は世界で第三位の「経済大国」となっており、世界、特にアジア、太平洋地域の経済の動向に大きな影響を与えている。

しかも、地理的には、日本はソ、米二つの超大国にはさまれており、また、中国、朝鮮などの社会主義国家ともひじょうに近く、アジアの東北部を弓がたにかこんでいるので、アジアにおいて、戦略的に重要な地位を占めている。

日本は、中国にとって、「一衣帯水」の隣国であり、上海から九州の長崎^{ながさき}まで約460海里、台湾省から日本の南西諸島の南端までは、約60海里しかはなれていない。

日本は戦略的に重要な地位を占めているうえに、中国の隣国でもあるので、中日両国間の平和友好関係を発展させることは、覇権主義反対と世界平和にとって、ひじょうに重要な意義を持っている。

2. 面積と地方区分

日本の面積は約 37 万 7000 ^{へいほうキロメートル} km^2 で、中国の約二十五分の一にあたる。その中で、本州の面積がいちばん大きく、付属島嶼^{とうしよ}をも含めた面積は全国面積の61 ^{パーセント} % を占めている。ついで、北海道は21%、九州(沖縄県を含む)は12%、四国は5%をそれぞれ占めている。

日本の国土は、ふつう北から北海道、東北、関東、中部、近畿^{きんき}、中国、四国、九州の八つの地方に分けられる。最近では中国地方と四国地方を一つにまとめて、中国、四国地方とし、七つの地方に分ける場合も多い。これらの地方区分は地形などの自然的特性と地域の産業や歴史的変遷を基礎にして分けられたもので、行政上の地方区分ではない。

行政上では、東京都、北海道、大阪府、京都府、青森県、秋田

県、……など1都、1道、2府、43県に分けられている。

日本の都、道、府、県は、中国の省や直轄市にあたり、都、道、府、県にはそれぞれ都庁、道庁、府庁、県庁がもうけられ、その下に市、町、村^{ちょう そん}などの順序で行政機構がもうけられている。

日本の47の行政区域の中で、面積がいちばん広いのは北海道で、東京都の37倍もあり、いちばん小さいのは大阪府で、北海道の四十五分の一しかない。

都・道・府・県一覧表

北海道(ほっかいどう)			
青森(あおもり)県 秋田(あきた)県 岩手(いわて)県 山形(やまがた)県 宮城(みやぎ)県 福島(ふくしま)県	東北地方	富山(とやま)県 石川(いしかわ)県 福井(ふくい)県 山梨(やまなし)県 静岡(しずおか)県 岐阜(ぎふ)県 愛知(あいち)県	中部地方
栃木(とちぎ)県 群馬(ぐんま)県 茨城(いばらぎ)県 埼玉(さいたま)県 千葉(ちば)県 神奈川(かながわ)県 東京(とうきょう)都	関東地方	滋賀(しが)県 三重(みえ)県 奈良(なら)県 京都(きょうと)府 大阪(おおさか)府 和歌山(わかやま)県 兵庫(ひょうご)県	近畿地方
新潟(にいがた)県 長野(ながの)県	中国地方	鳥取(とっとり)県 岡山(おかやま)県	中国地方

島根(しまね)県 広島(ひろしま)県 山口(やまぐち)県	中国 地方	福岡(ふくおか)県 佐賀(さが)県 長崎(ながさき)県 大分(おおいた)県 熊本(くまもと)県 宮崎(みやざき)県 鹿児島(かごしま)県 沖縄(おきなわ)県	九 州 地 方
香川(かがわ)県 愛媛(えひめ)県 徳島(とくしま)県 高知(こうち)県	四 国 地 方		



日本の地方区分

3. 山地と火山

日本列島は世界的に造山活動の活発な環太平洋造山帯に属している。このため、山地が多く、火山活動が活発で、断層も多く、地質構造が複雑である。

山地(山脈、なだらかな山地、丘陵地、高原を含む)は日本の全国土面積の約75%を占めており、大きな平野はない。

本州の中央部、新潟県から静岡県にかけて、「フォッサ・マグナ」(大地溝帯)とよばれる地溝帯(断層によって落ちこんだところ)

ろ)があり、これによって、日本の地質は大きく東北日本と西南日本とに分けられる。

山地は東北日本では3列に、西南日本では2列にならび、日本列島をせばねのようにつらなって、国土を太平洋側と日本海側とに二分している。東北日本と西南日本の山地が出あう本州の中央部では、東北日本をつらぬいてきた3列の山地が「フォッサ・マグナ」によって断ち切られ、それがねじまげられた結果、飛驒、木曾、赤石の三山脈が南北に走り、日本アルプスとよばれる高山地帯を形成している。この日本アルプスには高さ3000mをこえるけわしい山々がそびえており、日本の高い山はここに集中している。

西南日本を走っている2列の山脈の間には「中央構造線」とよばれる断層があり、これによって、西南日本は内帯(日本海側)と外帯(太平洋側)に分けられている。内帯を走る山脈は、いっぱんになだらかであるが、外帯を走る山脈は高くてけわしい。このように、日本には、飛驒山脈、木曾山脈、赤石山脈のように高くてけわしい山脈もあれば、北上山地、阿武隈山地、中国山地のように、なだらかな高原状の山地もある。

富士山は「万年」雪をいただく美しい山で、海拔3776mあり、日本一高い山である。

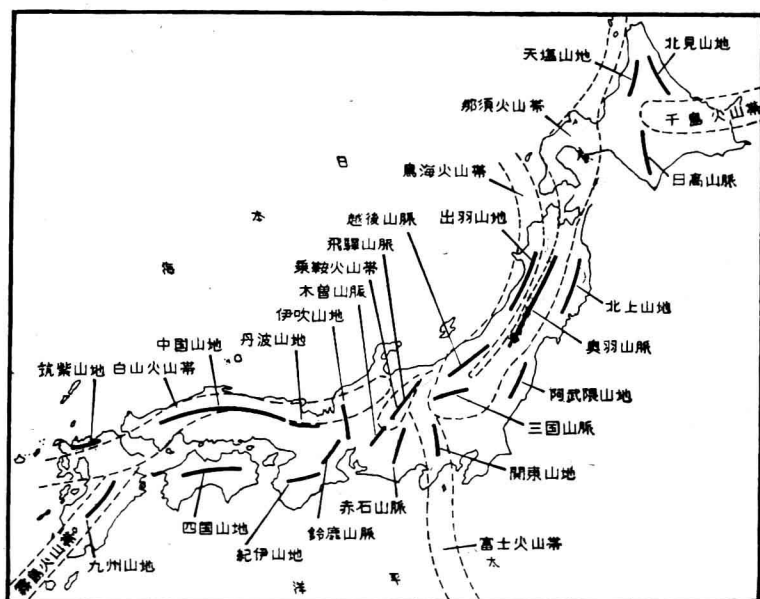
日本列島には、富士山をはじめ火山が多い。

日本は地盤の不安定な造山帯にあるので火山活動も活発で、日本列島は七つの火山帯によってほとんどおおわれている。七つの火山帯とは、千島、那須、鳥海、富士、乗鞍、白山、霧島の七つである。火山の中には、今でも噴火を続ける阿蘇山、三原山、浅間山などの火山がある。また、最近では、御岳山が新しい噴火をし

はじめたことが報じられている。

いっばんに火山帯には、変化にとんだ美しいながめの山が多く、火山活動によってできた湖や温泉もたくさんあるので、保養地や観光地として利用されている。しかし、その反面、日本は火山の噴火や地震が多く、また、地すべりのおこりやすい不安定な地域も少なくない。

日本の山地は、多くが森林地帯で、林業地となっている。最近では、奥地の森林を開発するために林道が開かれ、植林もひろく行われている。火山の裾野^{すその}や高原地帯も広い面積をしめ、一部は放牧に利用されているが、日本では、山地の斜面を牧草地として利用することは、あまりすすんでいない。しかし、山麓^{さんろく}などのゆる



日本の山地、山脈と火山帯

やかな斜面は、だんだん^{ばたけ}畑に利用されているところが多い。また、山地からは、いろいろな鉱産資源が産出されるが、大部分はその量が少ない。

日本の高い山(高さ3000m以上)

山 の 名	所 在 地	高さ (m)
富士山(ふじさん)	山梨・静岡	3776
白根山(しらねやま)	”	3192
穂高岳(ほだかだけ)	長野・岐阜	3190
槍ヶ岳(やりがたけ)	”	3180
悪沢岳(わるさわだけ)	静岡	3146
赤石岳(あかいしだけ)	長野・静岡	3120
御 岳(おんたけ)	長野・岐阜	3063
塩見岳(しおみだけ)	長野・静岡	3047
仙丈ヶ岳(せんじょうがだけ)	長野・山梨	3033
乗鞍岳(のりくらだけ)	長野・岐阜	3026
立 山(たてやま)	富山	3015
聖 岳(ひじりだけ)	長野・静岡	3011

(「日本のすがた・1979年」より)

4. 川 と 湖

日本は細長い島国で、国土の中央をせばねのように山脈が走っているのです。川は、いっばんに、中央の山脈をさかいにして、太平洋と日本海とに流れている。このため、川は短く、急流が多い。日本一長い^{しなの がわ}信濃川も、その長さは367kmにすぎず、ブラジルのアマゾン川(7025km)、エジプトのナイル川(6670km)、中国の揚子江(6300km)など世界的に有名な川とくらべると、とても

短い。

また、日本の川は、^{ばいりゅう}梅雨や台風、雪どけのころは、水がふえて^{こうずい}洪水がおこりやすく、^{ひでり}ひでりのつづくときは、川の水がいちじるしくへる。

このように、日本の川は長さが短く、流れが急で、水量の変化がはげしいので、交通にはほとんど利用できないが、しかし、水力発電やかんがい、工業用水、上水道にはよく利用されている。今では、川の上流にダムをつくって、水の流れを調節し、川の水を有効に利用している。

日本の湖沼は火山の爆発によって形成されたものが多い。湖沼

日本の大きな川

川　　の　　名	長さ(km)	流域面積 (km ²)
利根川(とねがわ)	298	16840
石狩川(いしかりがわ)	262	14300
信濃川(しなのがわ)	367	12050
北上川(きたかみがわ)	247	10200
木曾川(きそがわ)	193	9100
十勝川(とかちがわ)	178	8400
淀川(よどがわ)	75	8240
阿賀野川(あがのがわ)	210	7340
最上川(もがみがわ)	232	7040
天塩川(てしおがわ)	311	5590
阿武隈(あぶくまがわ)	225	5400
天竜川(てんりゅうがわ)	250	5090

(「日本のすがた・1979年」より)

は近畿以東に多く、以西には少ない。湖の中で一番大きいのは琵琶湖である。琵琶湖は、地盤運動によって断層が生まれ、それがおちこんでできたものである。

海岸地帯では、波によって運ばれた砂が、湾口部をふさいで湖沼を形成したものもある。秋田県の八郎潟はちろうがたはその例である。

日本の湖は、主に水上交通、かんがい、発電、工業用水、養魚などに利用されており、景色のよい湖は観光地としても利用されている。

5. 平 地

日本では山地が海岸までせまっているので、平地(平野、盆地、台地を含む)はせまく、しかも散在している。その面積は、国土の約25%ほどにすぎない。

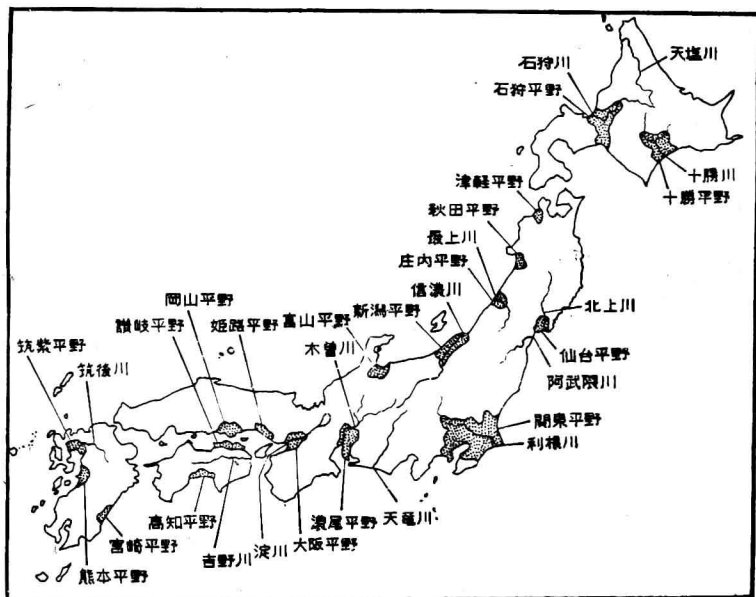
川が海に流れこむあたりには、たいてい平野ができています。日本では関東平野、石狩平野いしかり、新潟平野、濃尾平野のうびなどが大きな平野であるが、世界的にみるとごく小さな平野にすぎない。また、平地には平野のほかに、山にかこまれた盆地や、平地のうちいちだんと高くなっている台地がある。盆地は中央高地や東北地方に多く、台地は関東地方や九州地方などにみられる。

川が山地から平地に出るところに、扇を開いたような形の平地おおぎができてることが多い。このような地形を扇状地せんじょうちという。扇状地は、盆地のまわりに多く見られるが、小石や砂が多く、土地がかわきやすいので、果樹園や畑に利用されている場合が多い。

平野や盆地は人々の生活にとってたいせつなところである。そのため、人口が集り、農業が行われ、また多くの都市が発達して

いる。最近海岸には、人工的平地である埋立地^{うめたてち}や干拓地^{かんたくち}が多くつくられるようになった。

日本の大都市の多くは海に面した平野や平野と台地にまたがるようにして発達している。東京や大阪では、三角州とその前面の干拓地に人家が密集している。このような低地に発達した都市は、河川のはんらんや、高潮^{たかしお}による洪水にみまわれやすい。また地盤がやわらかいために、地震の被害をうけやすく、地下水のくみ上げによる地盤沈下も生じやすい。さらに、地震や台風のとみに海岸の堤防がきれると、海面より低い土地は海と化してしまう危険性もある。海面より低い土地は「ゼロメートル地帯」とよばれ、東京、大阪、名古屋^{なごや}、新潟などの都市周辺に、すでに400km²



日本の主な川と平野